

登録コード	UAA47500	開講年度	2026				
授業題目	英語文学実践演習					担当教員	飯岡 詩朗
						副担当	田所 朱莉
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・ 6 時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を身につける。		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を身につける。		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を身につける。		
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を身につける。		
(2)授業の概要	本授業では、特に以下の点を重視しつつ検討かつ議論しながら、アメリカ文学・文化の諸問題を見定め、テーマを決め、資料を集め、構想と章立てを決め、実際に短い英語の論文を書き、みなで評価し、リライトを行います。 1) 英語圏の言語文化の理解を深める。 2) 特定のテキストに関して研究テーマを設定し、それが妥当かどうかを判断できる。 3) 研究テーマのための資料及び資料分析の方法が妥当かどうかを判断できる。 4) 研究テーマにかかわる先行研究の収集範囲が妥当かどうかを判断できる。 5) 研究テーマについて考えをまとめ発表し議論できる。						
(3)授業計画	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：アメリカ文学・文化のテーマ選定 第 3 回：議論：アメリカ文学・文化のテーマ選定 第 4 回：アメリカ文学・文化のテーマの妥当性 第 5 回：議論：アメリカ文学・文化のテーマの妥当性 第 6 回：アメリカ文学・文化のテーマに関する資料収集（邦語文献、外国語文献） 第 7 回：議論：収集した資料について 第 8 回：論文の構想と章立て 第 9 回：議論：論文の構想と章立て 第 1 0 回：論文発表会 1 第 1 1 回：論文発表会 2 第 1 2 回：論文のレビュー 1 第 1 3 回：論文のレビュー 2 第 1 4 回：論文のリライト方法について 第 1 5 回：まとめ 期末試験の有無：無						
(4)成績評価の方法	以下を総合して判定する。授業内でのアクティビティ（ 50% ）、英語論文構成概要レポート（ 50% ） 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、 59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	計画表にそって、前回の復習や確認をするとともに、当該回の準備や予備知識の補充を事前におこなうようにしてください。						
(7)履修上の注意	高い英語力が求められます。十分に予習をした上で授業に参加してください。						
(8)質問,相談への対応	授業時間後またはメールで対応します。面談を希望する場合はメールで事前に連絡した上でオフィスアワーに研究室を訪問してください。オフィスアワーは初回に伝えます。メールアドレスは、人間文化学分野履修案内に掲載されています。						
【教科書】	指定しません。（プリントを配布予定。）						
【参考書】	授業内で紹介します。						